

病害虫情報

令和8年度農作物病害虫情報 第3号

令和8年9月7日付
奈良県病害虫防除所

病害虫名：果樹カメムシ類

(チャバネアオカメムシ・クサギカメムシ・ツヤアオカメムシ)

作物名：カキ・ナシ・ブドウ・カンキツ

対象地域：奈良県全域

発生時期：9月～10月

発生量：多い

1. 発表の根拠

- (1) 水銀誘殺灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数は、多くの調査地点で8月中旬以降から継続的に1日あたり100頭を越えており、1日あたり200～400頭が誘殺される地点もあります。また、果樹・薬草研究所での誘殺数を半旬ごとに合計したものを過去3年間で比較すると、8月以降は前回のカメムシ多発年であった令和6年を上回っています(図)。
- (2) 8月下旬の巡回調査では、ヒノキ樹のきゅう果におけるチャバネアオカメムシ成虫の寄生頭数は3.2頭/樹、寄生が確認された地点の割合は60.0%であり、いずれも過去5年間で最も高くなっています。なお、スギ・ヒノキのきゅう果はやや多く、新世代の成虫が多く発生している可能性があります。
- (3) 8月下旬の巡回調査では、カキにおけるカメムシの被害果率は平均6.4%とやや高くなっています。
- (4) 8月下旬の時点で、ヒノキきゅう果のカメムシ口針鞘数は平均8.0本/地点(果樹園飛来の目安は約25)と、前回のカメムシ多発年であった令和6年を上回っており、今後、大規模な飛来の可能性が懸念されます。

2. 防除上の注意事項

- (1) カメムシの飛来は気温と密接な関係があり、最低気温が高く、蒸し暑く感じる夜は特に注意が必要です。こまめに園地を見回り、果実への被害が懸念される時期に、新しい被害やカメムシを確認した場合は、防除を行ってください。
- (2) カメムシの飛来は園地間差が大きく、山際の園地や過去にカメムシ被害の多かった園地では特に注意してください。また、台風通過後には突発的な飛来がみられる場合がありますので、安全が確認された後に園地を見回り、飛来が認められた場合は速やかに防除します。
- (3) 飛来がない園での予防的薬剤散布は効果が期待できず、天敵の減少によってカイガラムシ類、ハダニ類の増加につながるなど弊害が大きいため控えて下さい。
- (4) 黄色灯を点灯できる圃場では早急に点灯して下さい。ただし、チャバネアオカメムシ以外には効果がないので、光源近くや園内でクサギカメムシやツヤアオカメムシ

が目立つ場合は薬剤防除が必要です。

- (5) 農薬散布時には隣接する農作物に飛散しないように十分注意して下さい。また、農薬使用前にはラベルをよく読み、記載された使用条件を遵守して下さい。

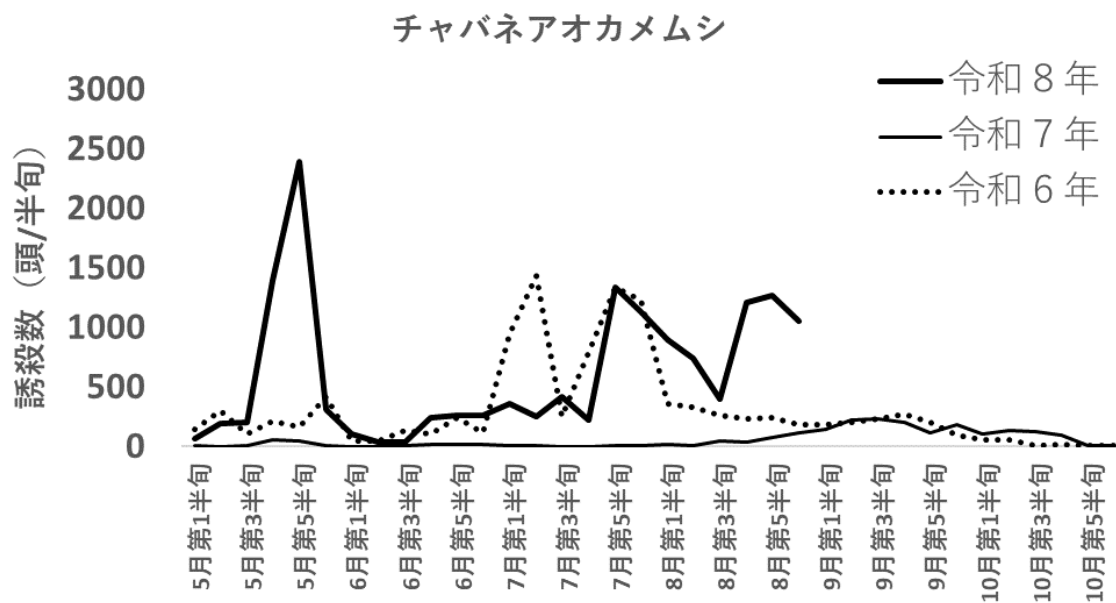


図 果樹・薬草研究所におけるチャバネアオカメムシの誘殺数
(半旬ごとの合計を過去3年間で比較)

表 カメムシ類の主な防除薬剤

	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	系統名
カキ	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	キックオフ顆粒水和剤と合わせて3回以内 ※1	ネオニコチノイド系
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000～10000倍	収穫7日前まで (ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	
	アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	ビレスロイド系
	アグロスリン水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	
	ロディー水和剤	1500倍	収穫7日前まで	3回以内	
	キラップフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	フェニルピラゾール系
	テッパン液剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	ジアミド系
	キックオフ顆粒水和剤	2000倍	収穫前日まで	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤と合わせて3回以内 ※1	ジアミド系・ネオニコチノイド系
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド系
ナシ	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	
	アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	
	ロディー水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	ビレスロイド系
	テルスターフロアブル	3000～6000倍	収穫前日まで	2回以内	
	アグロスリン水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	
	キックオフ顆粒水和剤	2000倍	収穫前日まで	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤と合わせて3回以内 ※1	ジアミド系・ネオニコチノイド系
	テッパン液剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	ジアミド系
	サイモディスDC	5000倍	収穫前日まで	1回	イソキサゾリン系
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド系
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	
	テッパン液剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	ジアミド系
カンキツ	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド系
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	
	テルスターフロアブル	3000～6000倍	収穫前日まで	3回以内	
	アグロスリン水和剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	ビレスロイド系
	テッパン液剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	ジアミド系
	サイモディスDC	5000倍	収穫7日前まで	2回以内	イソキサゾリン系

※1

スタークル/アルバリン顆粒水溶剤は「ジノテフラン」、キックオフ顆粒水和剤は「ジノテフラン」と「クロラントラニリブロール」を成分に含みます。共通する成分「ジノテフラン」の使用回数は3回以内ですので、スタークル/アルバリン顆粒水溶剤とキックオフ顆粒水和剤を合わせて3回以内となります。

注) この表の登録内容は令和8年9月3日時点のものです。農薬使用前にはラベルをよく読み、記載された使用条件を遵守して下さい。

お問い合わせは

奈良県農業総合研究センター 環境・病害虫防除科
(奈良県病害虫防除所)
TEL. 0744-47-4481

その他関連情報は以下をご覧ください

病害虫防除所ホームページ
<https://www.pref.nara.lg.jp/n128/1557.html>